

| 授業科目名 | 開講年次 | 開講期間 | 単位数 | 授業形態 |
|---------|---|------|-----|------------|
| 助産学実習Ⅰ | 1 | 後期 | 2 | 実習 90時間 |
| 担当教員 | 潮田千寿子、久保幸代、志村千鶴子、下睦子 | | | |
| 授業概要 | 妊産褥婦と胎児・新生児及びその家族について、生理的側面、心理・社会的側面を統合的に理解し、必要な助産ケアを実践し、助産実践に必要な基本的理論、知識、技術、態度を習得する。受け持ち産婦の助産過程を展開し、分娩経過の診断、対象の健康状態のアセスメント、ケア、実施、評価を行い、出産時の助産実践に必要な能力を養う。 | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦と胎児・新生児及びその家族について、生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、ケア計画の立案と助産ケアを実践できる。 2. 助産実践に必要な基本的理論、知識、技術、態度を身につける。 | | | |
| 履修条件 | 特になし | | | |
| 授業計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 正常分娩で分娩第1期から分娩第3期終了2時間までの産婦を受け持つ。 ・ 正常経過の産婦を受け持ち(3例)、生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、必要な助産ケアを実践する。受持ち産婦の、助産診断とケアの一連の助産過程を実施・評価する。 ・ 1-3例目までの受け持ち産婦・褥婦に関し、基本的な理論・知識の活用、基本的な産婦の支援・分娩介助技術を実施し、自己評価できる。 ・ 妊婦の健康診査と保健指導を見学し、妊婦のスクリーニング・フィジカルアセスメント・保健指導の一連を理解する。 | | | |
| 教科書 | 特に指定しない | | | |
| 参考書 | 特に指定しない | | | |
| 評価方法・基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標達成行動による総合的評価(60%) ・ 実習記録による学習成果(40%) | | | |
| 事前・事後学習 | <p>事前学習：既習の妊産褥婦と胎児・新生児及びその家族について、生理的側面、心理・社会的側面について復習しておく。</p> <p>事後学習：受持ち事例に実施した基本的な産婦の支援・分娩介助技術について自己評価し記述する。</p> | | | |
| 備考 | 特になし | | | |